

令和2年度 第7回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和2年10月9日（金）	教 育 長 坂 元 裕 人	教育総務課長 鹿 屋 勉
午後2時00分	教 育 委 員 田 原 正 人	学校教育課長 今 井 誠
↓		
午後3時15分	教 育 委 員 葛 迫 幸 平	社会教育課長 紺 屋 昭 男
第2研修室	教 育 委 員 田之上 厚美	国体推進課長 米 田 昭 嗣
	教 育 委 員 福 里 由 加	

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、令和2年度第7回教育委員会定例会を開会した。

2 令和2年度第6回定例会会議録の承認

3 議 事

報告第30号 令和2年10月1日付け教育委員会職員人事異動について
 報告第31号 垂水市学校臨時休業対策費補助金交付要綱の制定について
 議案第15号 垂水市就学援助事務実施要綱の一部改正について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第30号 令和2年10月1日付け教育委員会職員人事異動について	令和2年10月1日付け教育委員会職員人事異動の内容について報告するものである。	特記事項なし	承認
報告第31号 垂水市学校臨時休業対策費補助金交付要綱の制定について	垂水市学校臨時休業対策費補助金交付要綱について、教育長の臨時代理により制定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第15号 垂水市就学援助事務実施要綱の一部改正について	垂水市就学援助事務実施要綱について、学校の業務負担軽減のため、給付方法を学校長経由の現金支給から原則口座振込とするため、条項及び様式を一部改正しようとするものである。	特記事項なし	

議 事 内 容 等

3 議 事	報告第30号 令和2年10月1日付け教育委員会職員人事異動について 令和2年10月1日付け人事異動の内容を説明。 (質疑なし) 報告第31号 垂水市学校臨時休業対策費補助金交付要綱の制定について 垂水市学校臨時休業対策費補助金交付要綱の制定について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。 (質疑なし) 議案第15号 垂水市就学援助事務実施要綱の一部改正について 垂水市就学援助事務実施要綱の一部改正について、内容を説明。 田原委員 学校の事務簡素化という点でいいことだと思う。また、原則として口座振込にするということで、校納金や学校給食費の滞納がある場合を考慮していることも評価できる。 (議案第15号 承認)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	9月17日の学校訪問（垂水小学校・松ヶ崎小学校）について 児童数が市内一多い垂水小学校と、小規模校の松ヶ崎小学校。対照的ではあるが、両方とも学力向上に全力で取り組んでいるという感想を受けた。 松ヶ崎小は児童一人一人の個別指導が徹底できており、垂水小は人数が多いだけになかなか個に目が行き届かない悩みがあるようだ。しかし、多様な考えが引き出されたり、素晴らしい発想が生まれたりする授業の楽しさという点では垂水小学校の方が機会が多いのだろうと感じた。 垂水小の授業の中では、上位の子どもたちがもっと活躍し、学級を引っ張っていくような姿がもっと見られたらよかった。ミニティーチャー的な子どもたちはいっぱいいるような気がしたので、その子どもたちをもっと生かしていく手だてがないものかと思った。

葛迫委員	それと、中学年のデータで、「家庭でのメディアの時間が3時間以上」という児童が四分の一ほどいたが、これは問題だと思った。 読書も含めて、小学校の低学年の時から学校の勉強が大事だということを親が認識しないといけないと思う。メディア3時間以上という家庭は、親の認識を変えていかないと学力が二極化していくのではないかと危惧したところである。 桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール審査会について 10月5日（月）に鹿児島市役所で「桜島・錦江湾ジオパークスケッチコンクール」の審査会があり行ってきた。作品テーマは、桜島や錦江湾の自然や風景、桜島や錦江湾での遊びや農業体験の思い出、ジオサイト（「地球が生きていることが感じられて、多くの人に伝えたい良さがあるところ」の意）である。 対象は、鹿児島市、姶良市、垂水市の小学校に通う小学生、集まった作品数は、鹿児島市が37校1,662点、姶良市13校382点、垂水市4校16点、合計2,060点であった。垂水市の内訳は、牛根小2点、柊原小1点、新城小5点、水之上小8点で、去年は37点だったので作品数はだいぶ少なかったが、水之上小から3点の入賞があった。 作品の画題については、各地域によって方向性がみられ、地域の豊かな自然を愛する子どもたちがいたことに喜びを感じながらの審査だった。 例えば、鹿児島市内の子どもたちは対岸に見える桜島とフェリー、そして花火大会を描いた作品が多く、姶良市内の児童は龍門の滝や重富海岸、垂水市内の児童は猿ヶ城溪谷やシーカヤックの様子を描いていた。 審査をしていて感じたことは、鹿児島市内の児童と比べて姶良市や垂水市の児童の作品は色彩が弱いということである。鉛筆での下書きなど技術的にはあまり差は感じないのだが、色の使い方が豊富でない。着色に対して躊躇するというか、大胆さに欠けている。 理由として挙げられることは、鹿児島市の子どもたちは多くの美術作品に接する機会が多いということではないか。美術館や博物館での展覧会によく足を運んだりして体験をこなしている。美術だけではなく他の科目にも言えることだと思う。机上の学習だけでなく、体験学習や本物に触れる学習の豊富さにこのような差が生まれていると感じたところだ。 垂水市の子どもたちは、猿ヶ城溪谷や高隅山系などの自然、学校教育課や社会教育課が進める「シーカヤック大会」や「大野自然体験学習」など、本物に触れ合う機会も多いはずなので、その中から様々なものを学んでほしい。なお、スケッチ大会の優秀作品展示については垂水市市民館でも展示される。去年が年末に展示されていたので今年もその時期かと思う。 余談ではあるが、このジオパーク事業を所管する鹿児島市観光交流局に勤める柴ひかりさんは垂水出身で、垂水高校からロンドン芸術大学へ留学されて、帰国後今の仕事に携わっている。 その柴ひかりさんが、私のところに寄ってきて「先生、私のことを覚えていますか」と言うので驚いたが、15年ほど前、垂水高校生のときに母親と一緒に英国に留学することを報告してくれたことを思い出し、あの子だったんだと改めて驚いた。
------	---

	今は魚の絵を描くイラストレーターとして制作活動をしながら、ジオパーク国際推進員として鹿児島市役所で働いている。テレビやラジオで「柴ひかり」の名前は耳にしていたが、彼女がジオパーク国際推進員の活動までしていることは今回初めて知ったところである。垂水市出身の優秀な人材なので、垂水市の子どもたちの前で話をしてもらうなど、また何かの機会にお会いできればと思っているところである。
田之上委員	垂水小学校運動会予行練習を見て 運動会の当日は、参加者の制限があるということで、垂水小学校の運動会の予行練習を見に行った。子どもたちはみんな短距離走や表現運動、系の活動に一生懸命取り組んでいた。 運動会当日は天気にも恵まれ、市内すべての小学校でコロナ対策に工夫を凝らし、保護者の方々に見守られた素晴らしい運動会が行われ、嬉しく思った。 学生生活支援宅配便について 息子宛に学生生活支援宅配便をいただいた。自宅からの通学生にも支援の手を差し伸べていただき感謝している。垂水の特産品がいっぱい詰まっており、充実した内容でおいしくいただいた。宅配便のおかげで後期の授業も頑張ってくれと思っている。 中身も豪華で素晴らしい内容だったが、何よりも心遣いが嬉しく感じられた学生支援便だった。
福里委員	学校訪問（垂水小学校・松ヶ崎小学校）について 私にとっては、2校とも初めての学校訪問だった。 垂水小学校は自分の子どもがいるので授業参観などで行く機会も多かったが、ほかの学年やクラスの様子を見ることができてよかった。 授業参観の時と比べ、児童たちがみんな落ち着いて授業を受けている姿を見て、とても感心した。同じ単元でも先生方で資料や教え方に違いが見られ、子どもたちのためにいろいろ工夫されているところが良かった。ただ、水道や廊下など他の学校に比べて汚れているというか老朽化が進んでいるように感じた。保護者の視点から、きれいになるといいなと思ったところである。 松ヶ崎小学校は、児童が少ない分、小学校・PTA・地域が一体になって子どもたちのために力を合わせる姿がとても印象的だった。また、児童のほとんどが皆勤賞というのを聞いて感心した。 垂水小学校運動会について 9月27日、垂水小学校の運動会に保護者として参加した。コロナウイルス感染拡大防止のために各家庭2名までの人数制限で、特別な事情がある家庭に限り未就学児も可という連絡文書であったが、ほとんどの家庭が一緒に来校していたようである。また、祖父母の方々は基本的に対象外とされていたが、見に来ている人が数多く見られた。

教育長	事前に参加する人を知らせ、配布された紙に、名前、体温のほかいくつかのチェック事項があり、記入して受付を済ませた人は首からプラカードを下げるという仕組みだった。 休憩ごとに教頭先生が「本日入場制限があります。受付をされていない方は入場できません。」と放送されていたが、守れていない方が多く見られ、学校の規模が大きくなると難しいのかなと感じた。 子どもたちが出場したのは、かけっこダンス（表現運動）で、あっという間の運動会だった。運動会の練習期間が短かくて、息子の場合、徒歩は一回も練習がなくぶっつけ本番であったが、応援団になるためのオーディション、ソーラン節のセンターになるための練習などいろいろな目標に向けて一生懸命頑張る姿を見て頼もしく感じた。また、練習に取り組む姿勢を担当の先生に認めてもらえたことことで、すごく成長した運動会となった。下の女の子も出場2種目と応援団くらいで、短い時間の運動会だったが、感動した運動会だった。 市内各小学校の運動会について 市内小学校運動会の日は、学校教育課で北と南と手分けして視察させてもらった。小さな学校は小さな学校らしく地域の状況をうまく取り込みながら、ある程度規模のある学校は子どもたちを中心とした種目で構成された内容で、それぞれに特色のある運動会だった。 コロナ感染症対策については、先ほど福里委員から指摘があったが、各学校工夫して、精いっぱいやっていたのではないかなと思う。 今年はどこも午前中の開催であったが、こういう形もありなのかなと思う所があった。子どもたちは練習時間が短かくて負担感が少なく済む。1日開催となるとそれなりの練習量が必要となり体育の時間を集中的に運動会前に持って来ざるを得ないため、その分学習面がおろそかになる。また、保護者にとっても負担軽減になる。特にお母さん方はお弁当の準備がいらなくなるので良かったのではないかな。その日の昼、ファミリーレストランは小学生の家族連れでいっぱいの状態で、経済効果もあったのではないかなと思ったところである。 ある子どもが「今年のような運動会もいいね。」と両親に言っていたという話も聞こえてきて、ウィズコロナの時代の運動会の在り方として、今後とも今年のようなかたちが続くのかかもしれない。 ただ、卒業学年の子どもたちに対する配慮は必要であり、彼らを大事にしながら思い出を作ってあげる、そこを意識的に企画・運営していかなければならない。 教育委員会の今後の行事について 今後の教育委員会の行事の開催について少し紹介しておきたい。 コロナ禍のもと、やれないではなく、どうしたらやれるかというところで始めたのがキッズイングリッシュ（小学生英語教室）で、9月26日の土曜日に5・6年生を中心とした12人の参加で実施しており、今後、口コミで広がって参加人数が増えることを期待している。 次に、大野自然学校は12月に土日の1泊2日で予定していたものを、1
-----	--

教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長 国体推進課長 6 閉 会	日に短縮して実施する。午前にクリスマスツリー、午後には門松の制作を計画しており、参加者は親子8組の規模を考えている。 年明けには、成人式を開催予定であり、時間短縮や規模の縮小はあると思うが、実行委員会で準備を進めているところである。2月には落語会も実施する方向で準備を進めている。 4課長から9月11日から10月9日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、11月9日までの行事予定についてお知らせした。
---	--